

# 彩の国ホテル旅館ニュース

THE SAINOKUNI HOTEL RYOKAN NEWS

2014.10(平成26年10月)

第107号

秋期号

年2回発行

## 「共有と結束」「連携と協働」

埼玉県ホテル旅館生活衛生同業組合  
埼玉県さいたま市浦和区高砂 4-4-17  
〒330-0063 TEL 048-861-9511/FAX 048-866-2374

発行日：平成26年10月6日  
発行人：編集人：池田友久

URL <http://www.saiyado.com>

### 今年度の事業活動日誌

#### 「耐震改修」で上田知事に陳情

地方公共団体の補助制度の整備・充実を… 2



埼玉旅組が「おもてなし委員会」を設置。川越で第1回会議を………3

#### 「東京五輪をチャンスに変える!」

外国人観光客へのおもてなしセミナー…… 3



埼玉県おもてなし力向上実行委員会が、観光業関係事業者がおもてなし力の向上を図るために開催する研修会等で活用してもらうための教本「埼玉県おもてなしサポートブック」を作成



#### 宮城県で全旅連全国大会開催

大会宣言と11項目からなる決議を採択… 8



## 平成26年度通常総会を開催

事業計画・予算案等を異議なく承認

### 先の理事会で選任された北堀理事長は総会で承認

「培ってきた経験活かして組合の発展目指したい」と北堀理事長

「都道府県観議連等への働きかけも」

### 観光促進につながる活動推進

行政など他の組織との連携密に

埼玉旅組は5月14日、県南支部の旅館いけだで第56回通常総会を開き、役員改選では、今年4月17日の理事会で理事長に選任された北堀篤氏について、これを承認。また、平成26年度の事業計画や事業予算案など全議案を異議なく承認した。

「日々の研鑽と結束をもって、より確実な組合発展のための努力を積み重ねていきたい」という池田理事長代行のあいさつに続いて議事に入り、1号議案の平成25年度の事業報告と収支決算につづく全議案を審議し、承認した。この中で「定款の変更」については、埼玉旅組の組合員が500人以下になったことから総代会が開催できないことになったことでの変更。これに伴って理事は60名以内(理事長1人、副理事長4人、専務理事1人、常任理事15人以内、会計理事2人を理事の互選により決定)となった。このほか「振興計画変更申請」については、「振興指針の一部改正等があった場合における振興計画の変



あいさつする北堀理事長と黒崎課長、今成課長、冬野浦和支店長



大勢の来賓を迎えて行われた懇親会「旅館いけだ」で

更認定申請については、理事会に一任する」とされた。

また、役員改選では正式に承認された北堀理事長が「私の培ってきた知識と経験をもって、組合、そして業界発展のために尽力したい」とあいさつし、協力を求めた。来賓祝辞では岡崎嘉子埼玉県保健医療生活衛生課課長、今成貞昭埼玉県産業部観光課長、日本政策金融公庫を代表して冬野英和浦和支店長があいさつを述べた。

平成26年度の事業計画は次の通り。

「組合組織の強化」では組合財政の確立(新規組合員の加入促進)と組合活動の拡充、青年部及びJKK埼



握手する新理事長。商社を紹介する大倉事業部長と伊丹彩国会会長



商品説明を行う商社のみなさん

玉支部の拡大・充実のほか、全旅連全国大会及び各支部総会など組合事業への参加と組合員意識の高揚を図る。また「調査・研究・広報・情報活動の充実」「過当競争対策」「生衛法による営業の振興（埼玉県観光づくり条例に基づく観光事業の振興・振興計画に基づく振興事業の実施・IT化事業の拡充・促進など）」「旅館業暴力対策協議会関係への対応」「税制改正（組合員所在の自治体への陳情・市町村合併に伴う事業所税の課税に対する免税措置・相続税の軽減など）への要望」「防災安全対策・融資対策関係への対応」などを図る。

「事業関係」では、組合の指定業者（彩国会）活用の促進、NHK受信料取りまとめ業務手数料による組合運営の健全化などを図る。また、「改正風営適正化法からの除外運動の促進」「全旅連『宿ネット』への登録促進」「シルバースター登録制度への加入促進」「全国旅館政治連盟並びに埼玉県支部活動の推進」「行政庁並びに関係諸団体との連絡協調」などを進めていく。

「耐震改修問題」で上田知事に陳情 副知事・都市整備局長・企画財政部長にも要望

地方公共団体の補助制度の整備と拡充要望  
ホテル・旅館を避難所等の防災拠点に指定されたい

埼玉旅組は9月11日、知事応接室で上田知事に会い、ホテル・旅館の耐震改修への県の支援について要望した。陳情団は9名、



北堀理事長が、知事に「耐震改修法の改正に伴い必要となる耐震改修工事費用に対する地方公共団体の補助制度を整備・拡充するとともに、旅館ホテルを避難所等の防災拠点として位置づけてください。」とした要望書を手渡し、次ぎのように要望内容を伝えた。

◇国内のホテル・旅館は、リゾートジャパンを支える施設であり、日本のおもてなしの拠点施設として地域活性化に寄与するとともに、地域における雇用確保にも貢献している。また、東日本大震災では多くの避難者を受け入れた実績があり、災害時の防災拠点としての機能も併せ持つ公共性の高い施設であると認識しており、安定的な経営の継続、また、耐震改修の必要性は理解することはできるが、それには多額の費用が必要となり、これをホテル・旅館の事業者のみで負担するは困難な状況にある。

◇そのことから、こうした状況を踏まえ、国土交通省においては、法改正に併せて、ホテル旅館の耐震改修工事費用について補助制度の拡充が平成25年度から行われている。国の補助制度は都道府県が避難所等の防災拠点として位置づけた場合、最大2/5の補助を受け持つとしているものだが、地方公共団体が同額を補助した場合、事業者負担は1/5と



知事応接室で上田知事に要望する陳情団。下は陳情を受ける岩崎副知事

なる。その他の場合は国の補助は最大1/3で、地方公共団体が同額を補助した場合、事業者負担は1/3となる。

◇事業者の負担を軽減するためには、国の補助制度の拡充に併せて、地方公共団体の補助制度の整備・充実を進めることが不可欠である。ホテル・旅館を避難所等の防災拠点として指定することにより、耐震改修に対する積極的な支援を進められることを要望したい。

陳情団は、上田知事のほか、岩崎康夫副知事、秋山幸男都市整備部長、中野晃企画財政部長らに要望した。

陳情には、ほかに池田副理事長、篠崎専務理事、川島、橋本両常務理事、清水理事、そして、秩父支部女将会の北川、坂本、黒沢の各氏が参加した。

## 耐震改修における補助金制度の実現で要望 新たに「女性部」と「おもてなし委員会」設置へ

埼玉組は6月18日、第2回理事会を食環センタービル会議室で開催＝写真＝した。議題となった耐震改修における補助金制度については、その実現に向け、



知事に対し早急に要望していくことを決めた。また、埼玉組に新たに「女性部」と「おもてなし委員会」を設置することを決めた。旅政連会費は、組員1000円、日本旅館協会加盟館一律4000円という案通り決定。

全旅連が進めているチェーンホテル一括入会については、東横インの場合は、既に全旅連に加入している施設と今回新たに全旅連に加入する施設（212軒とみられており、年会費は1000万円という案も出されている）についての今年度の契約案や次年度以降の契約案、また、東横イン以外の一般チェーンホテルとの契約案も出ているが、まだ流動的で最終決定はされていない旨の報告が行われた。

## 「おもてなし委員会」が第1回会議を開催 委員構成は青年部、女性部、彩国会など交え13名

埼玉組は新たに「おもてなし委員会」を設置し、第1回会議を川越第一ホテルで開催し、委員長に橋本和久氏（大宮支部長、タウルホテル大宮＝写真＝を選任した。同委員会は県のおもてなし委員会とも連携していく。委員構成は青年部、女性部、彩国会も入り13名。「外向き、内向きの問題点を共有して解決の道を広げていくのが埼玉組おもてなし委員会の目的」（橋本委員長）としている。会議での議事録は各支部、組員に発信していく方針だ。



会議では、「埼玉県おもてなし大賞」の募集についての説明も行われた。同大賞は、「旅行者が観光地を訪れ満足感を得られるかどうかは、街中での道案内など見知らぬ場所で接した人から優しく丁寧に説明を受けたことや、心温まるおもてなしを受けたことなどが大きく影響するものだが、埼玉県では、観光事業者等のおもてなし力向上に資するため、ホスピタリティ精神に富んだおもてなしを実践する企業等を表彰していく」というもの。

## 「東京五輪をチャンスに変える!」で県がセミナー開催 外国人観光客への「O・MO・TE・NA・SHI」で講話

埼玉県は8月1日、「東京五輪をチャンスに変える!外国人観光客への『O・MO・TE・NA・SHI』セミナーを埼玉県県民健康センターで開催した＝写真＝。県内の観光事業者、観光関係団体などを対象にし、埼玉組からは約20人が参加した。



プログラムは「2020年東京五輪に向けた埼玉県の対応」（埼玉県）、「訪日外国人観光客の動向」（日本政府観光局）、「ムスリム観光客への対応」（日本アセアンセンター）のほか、「外国人観光客へのO・MO・TE・NA・SHI」をテーマとしたパネルディスカッションで、パネリストは山田洋・日本政府観光局事業連携推進部観光情報戦略室長、藤田健・日本アセアンセンター観光交流部プロジェクトマネージャー、外国人観光客から非常に人気のある澤の屋旅館の館主・澤功氏、山田裕貴氏（株式会社明成（ビストロやま、割烹やま）代表取締役）の4氏。



2013年の訪日外国人は1千万人を超え、過去最高（1,036万4千人）となった。これを受けて、観光庁は、2020年の東京五輪に向けて、2,000万人の外国人旅行者誘致を目指す方針を打ち出している。これは東京だけでなく、世界に日本を売り込む絶好の機会であり、地方や小さなまちにも多くの外国人観光客が訪れることを意味している。セミナーでは「これまで二の足を踏んでいた外国人観光客の受け入れも、人口減少の中、これからは避けて通れない課題となっている。今から、積極的に準備や取り組みを行い、早期に市場の中での地位を確立してほしい」としている。

また、近年東南アジアからの訪問観光客の伸び率が顕著となっているが、その中ではムスリム（「イスラム教を信仰する人」を意味する言葉）人口の占める割合も大きいとされている。ハラルは、イスラム教の教えに基づき「合法的なもの」「許されたもの」という意味のアラビア語。ハラルの反対は「ハラム」または「ノンハラル」と言い、イスラム教の教えで「許されないもの」を意味する。ハラムとされるものの例として、豚・アルコールなどがある。セミナーでは、これからさらに多くの訪日が予想されるムスリム観光客への対応についての講話も行われた。

平成 26 年度全旅連関東ブロック会総会開催 長野県・上高地で / 埼旅組から理事長ら 3 氏出席



全旅連関東甲信越ブロック会(笹本森雄会長)は7月2日、長野県・上高地の「上高地温泉ホテル」で平成 26 年度総会を開き、平成 25 年度事業報告及び収支予算報告のほか、平成 26 年度事業計画案並びに収支予算案などを承認した=写真=。



埼旅組からは、北堀理事長、池田副理事長、篠崎専務理事の 3 氏が出席。茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、山梨、新潟、長野の各県からの出席者は 27 名。全旅連から佐

藤会長と職員らが出席した。ブロック会では長野県青年部活動報告も行われた。

平成 26 年度事業計画は次の通り。  
 (1) 全旅連事業に対する協力=全旅連で行う事業について当ブロックとして協力・推進・普及に努める。  
 (2) 地域特殊性に対する諸問題の対応=当ブロック内観光地・温泉地各地域事情に各地域の問題についてブロック会全体問題として解決に努める。  
 (3) ブロック内各県連相互の情報交換と親睦=各県で業界における多くの情報を、ブロック会会員に速やかに伝達し、ブロック内親睦に努める。  
 (4) ブロック内各組合事業への協力=ブロック内各県で開催される諸事業に対し特段の協力・推進に努める。  
 (5) ブロック内青年部組織の充実=ブロック内青年部活動に対しての、協力・支援に努める。(首都圏、北関東信越ブロック青年部)  
 (6) シルバースター制度の普及推進=シルバースター制度加入旅館・ホテル及び新規加入の推進に努める。

「専用入浴着を着用した入浴について」  
 埼玉県保健医療部生活衛生課長名で通知

埼玉県保健医療部生活衛生課の黒崎嘉子課長は 7 月 14 日、「専用入浴着を着用の入浴について」とした通知を埼旅組に対して行った。同衛生課では平成 23 年 1 月 31 日付で衛生第 741—3 号として「ユニバーサル観光の推進」について通知しているが、これは同通知に関連したもの。県民から公衆浴場で手術痕を覆う専用入浴着の使用を断られたことに関するもので、専用入浴着の着用についての理解を深めてほしいと求めている。

乳がん手術等による傷跡をカバーする専用入浴着については、はっ水性の素材が使用され、タオル等とは違い、簡単に石けん等を洗い流すことができるもので、入浴の直前に着用し、浴槽に入る前には付着した石けん分を良く洗い流すなど適正に使用している場合は、公衆浴場第 5 条に規定する「公衆衛生上害を及ぼす恐れのある行為」には当たらないとしている。

埼玉県ホテル旅館NEWS

情 / 報 / 交 / 差 / 点

■～テロの未然防止のため～対策のご理解とご協力を【埼玉県警察本部】=埼玉県ホテル旅館生活衛生同業組合の皆様方には、日頃から警察業務へのご理解とご協力をいただきまして、この場をお借りして感謝申し上げます。

今後、埼玉県においては、2019 年のラグビーワールドカップの試合会場として「県営熊谷ラグビー場」への招致活動を展開し、また 2020 年のオリンピック・パラリンピック東京大会では、県内 3 会場での開催が予定されています。オリンピック等は、国を挙げた祭典という華やかさの反面、テロ行為が過去に起きており、ホテルや旅館などに一時滞在場所としてテロリストが潜伏するおそれがあります。

現在、地元警察署員により、ホテルや旅館を訪問して、テロの未然防止のためにご協力いただいておりますが、緊急事態に備えた官民一体となった体制の構築が安全・安心につながる鍵となります。

そこで、引き続き、◎外国人宿泊者の身分確認【国籍、旅券の確認・写しの保存・名簿記載】◎警察への通報【旅券提示(複写)の拒否・宿泊者以外の者の出入り等】◎

宿泊者名簿の閲覧【個人情報保護法における例外事由：違反になりません】の継続したご協力をお願い致します。



埼玉県警察シンボルマスコット  
 ポッポくん ポポ美ちゃん

このほか警察では、テロリストが利用するおそれのある施設や公共交通機関の警戒警備などテロの未然防止に向けた活動を推進中であり、安全・安心を基盤とした「おもてなし」の実現のために、今後も警察活動にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

■今年度組合の総会で今成観光課長はあいさつの中で、東京五輪について述べ「競技は主に都心で開催するが、埼玉県内では、さいたま市緑区の埼玉スタジアムのサッカー、朝霞、新座両市の陸上自衛隊朝霞訓練場の射撃、川越市笠幡の霞ヶ関カンツリー倶楽部でのゴルフと 3 施設が競技会場となる。3 会場となるのは埼玉県だけ。これは、外国人観光客にも埼玉県の魅力をよく知ってもらえるいい機会となる。五輪に向けてソフト、ハードの両面でまちづくりや地域ぐるみの体制づくりを推進し、おもてなしに努めましょう」とあいさつした。

第 92 全旅連全国大会

盛大に開催された「全旅連全国大会 in みやぎ」

「Evolution of Miyagi」がテーマ

～更なる進化を目指して走り出そう～

「総力を結集し所期の目的を達成する」と宣言

「実現に向け邁進する」とした11項目の決議も採択



式典では組合功労者表彰、「人に優しい地域の宿づくり賞」の受賞者の表彰も。会場はお大勢の組合員で埋め尽くされた。手前は次期開催地となる佐賀県のみなさん

組合活動等への功労者を表彰  
吉澤、小倉、五十嵐の各氏が受賞

全旅連は6月4日、第92回全国大会の式典を宮城県仙台市の電力ホールで、また大懇親会を隣接する江陽グランドホテルで開催した。「更なる進化を目指して走り出そう」の大会テーマのもと、全国からの組合員はじめ全旅連関係者など1200人が参集。「旅館ホテル業の更なる進化を目指すため、同業同士が相集い団結の絆を強め、全国業界の総力を結集し、以て所期の目的を達成するため邁進する」とする大会宣言と「これが速やかなる実現に向け邁進する」とした11項目にわたる決議を採択した。



あいさつする佐藤会長と佐藤宮城県理事長

旅館業および組合活動に



対し功労・功績のあった人たちを表彰する表彰式では、厚生労働省健康局長表彰で14名、埼玉県から吉澤正人常務理事、全国生活衛生同業組合中央会理事長感謝状で32名、埼玉県から小倉実理事、全旅連会長表彰で52名、埼玉県から五十嵐忠朗理事が受賞した。写真は左から吉澤、小倉、五十嵐の各氏

一堂に会して行われた大懇親会  
2箇所の展示ブースも大勢の人でにぎわった



あいさつする観光庁の石原観光産業課長と佐藤会長ら



エクスカーションと大会会場での旅組のみなさん



商品情報いっぱいの展示場を見学する池田氏夫妻

被災地3県の理事長が復興決議表明を  
会場からも力強いエールが送られた

式典では、中山青森県理事長と松村秋田県理事長が読み上げた「大会宣言」と「決議」を採択。

このあと、宮城県内で被災した旅館ホテルの経営者が、困難に直面しながらも復興へと立ち上がった姿をまとめた映像が上映されたほか、被災地3県の菅野、澤田、佐藤各組合理事長による復興決議表明が行われた＝写真上＝。復興への決意を示したシュプレヒコールはフレーフレーの掛け声で岩手、宮城、福島、東北、そして、全旅連のそれぞれに向けられ、会場からも力強いエールが送られた。



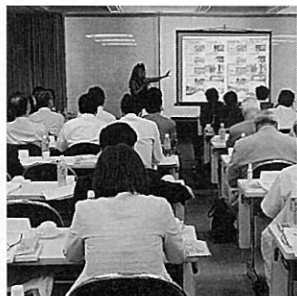
式典は次期開催地発表（佐賀県）＝写真下＝へと進み、式典は、最後に宮城県組合の一条常務理事の発声による万歳三唱で幕を下ろした。

## 登録施設紹介の「ガイドブック」発刊へ 内容は消費者の関心を引く楽しいものに

全旅連シルバースター部会（多田計介部会長）は7月8日、東京・千代田区の都道府県会館で総代会を開き、平成26年度事業として6年ぶりとなるシルバースター登録施設を紹介するガイドブックの発行を決めた。今までの何年かはインターネットにシフトしていたが、紙媒体の影響も強いとして再発行を決めたもの。フリーペーパー（無料）形式で配布することで、会員の施設をより一層多くの人に紹介し、画像付きの施設紹介を掲載（有料広告にて参画）するなどし、ビジュアルな訴求も目指し、誘客につなげていく。



多田部会長と埼玉県組合の池田氏。下は本の説明



ガイドブックの内容は登録施設の紹介と8つのエリアによる観光案内。各地域の地元の人にしか分らない隠れた観光ポイントを紹介するなど、消費者がおとずれてみたくなるような楽しいものにする。A4判、72ページ。3万部発行し、宿泊客にもみてもらおうと1万2000部を登録施設に、1万8000部をJTBパブリッシング発行の、アクティブシニアを応援する月刊誌「ノジュール」の定期購読者に配布する。ノジュールは50代以上の旅好きなシニアが興味を持つ雑誌。5万4000人の定期購読者がいるが、年齢層や地域などを限定するなどしてノジュールに同時同梱で読者に送付していく。

### 「少子高齢化とシニアの視点で見る鉄道と地域と観光」

シルバースター総代会での研修会は、JR東日本の高橋敦司氏による「少子高齢化とシニアの視点で見る鉄道と地域と観光」をテーマとした講演。

本州の右半分を占めるJR東日本は、地球上で最も1日当たりの利用の多い旅客運送会社である。しかし、高橋氏は「JR東日本って未来永劫あると思いませんか」と問いかける。中学生の数は、今はピークの半分。少子高齢化は驚愕の現実をみせているが、鉄道の利用客も大局的には「増えない」という現実が待っている。ここで、高橋氏は「JR東日本は今なぜ観光に力をいれるのか」と語気を強める。それは、日本が生産地から消費地へと変化した今、こうした問題を乗り越えるのは「観光しかない」



「今なぜ観光なのか」について考える研修会

という理由からだ」と語り、「『旅』とは行動消費の連鎖であり、それは観光の持つすばらしい力である」と力説する。また、具体的に「人口減の中の成長領域は『シニア』と『訪日外国人』である」と述べた。

高橋氏は、この「行動消費」と「シニア」という二者を通して、10年後のコア世代のために10年前にスタートさせた「大人の休日倶楽部」について語った。また、シニア層の意識に深く入り込みながら、いかにして少子高齢化を迎え撃つかについて次のように語った。

◇現代のシニア層の意識について述べてみると、好きな言葉は「仲間、円熟、先を読む、個性」、嫌いな言葉は「孤独」。趣味は「旅行、仲間との集まり、食事やショッピング」となっている。また「まだ『老後』ではないと思っている」「孫はかわいいが、毎日だとうとうしい」「いつまでも自己啓発したい」といった生活意識の変化がみられる。関心事は「インターネット、健康、ボランティア」で実年齢より10歳近く若いと思っており、非常に元気だ。生きがいは自分自身。まだまだ社会からリタイアしておらず、世の中との繋がりを大切にしている。

内容は知的好奇心を徹底的に満たす「学びの旅」や「趣味の会」も好評だ。「みそづくり講座」は基礎講座のあと、地元の女将たちの指導によりみそをこねるといったもの。女将たちは自分の宿だけに伝わる伝統的なみそのレシピを伝え、参加者は一心にみそをこねる。そして2月（冬）に自分が作ったみそができるのを心待ちにするというもので、この企画には4倍を超す応募があった。何よりも女将も、お客も豊かになり、地域が元気になる企画の一つでもある。またシニアにとってはカルチャースクール等は出会いの場となるが、それが「仲間作り」へと進み、そして仲間作りから「旅」へと発展する。結果は、「旅を通じて自己実現へ」と導かれることになる。

観光は行動消費の連鎖で成り立つ。そこにはリピートの可能性も発生する。そして、鉄道も道路も地域も潤う可能性がある。こうして観光による交流人口の増加によって地域経済の停滞を克服することができるし、それは何よりも日本の再生につながるといういい。「いまなぜ観光なのか」。私たちは真剣に考える必要がある。

# 次期青年部長に桑田氏を選出

「One for All, All for Oneの精神で」と所信語る



都道府県会館で行われた臨時総会

『「維新伝心」青年部(われら)の共創力(ちから)で未来を拓こう』を標榜する平成 25 年・26 年度全旅連青年部(山口淳史部長)は 9 月 11 日、平成 26 年度臨時総会を東京・千代田区の都道府県会館で開き、平成 27 年・28 年度の新部長に桑田雅之氏(長野県上田市・菅平高原温泉ホテル)を選出したほか、「自社 HP での販売向上を目指せ」をテーマとした「県部長サミット」と陳情活動を行った。

## 平成26年度 全旅連青年部臨時総会



山口部長握手を交わす 27・28 年度次期部長の桑田氏(左)

次期部長には桑田雅之・現青年部副部長が立候補し、所信表明では、同氏が若い頃からラグビー選手として活躍していたこともあって、ラグビーでよく使われる「One for All, All for One」の言葉を引用し「私はこの精神で青年部という組織を運営し、この業界を取り巻く問題に対し、全青年部員のスクラムを組んで立ち向かっていきたい。そういう想いで次期部長に立候補した」としたうえで、「全旅連青年部、県青年部、そして一般部員の距離をできるだけ近づけて、身近なものにしたい」と語りながら、政策的課題、流通課題、インバンド、構造的な問題、青年部員の減少問題などへの取り組みについて説明し、これらを基本方針とした。同氏の次期部長の選任は全会一致で承認された。報告事項では、全旅連青年部全国大会(10月8日、京都市勧業館「みやこめっせ」で開催)と第2回旅館甲子園(平成27年2月28日、東京・国際展示場で開催)そして、翌日の12日に行われる陳情活動についての報告と説明が行われた。県部長サミット(8ページに掲載)のあと、場所を都内のホテルに移して懇親会を開催。自民党観光産業振興議員連盟の細田会長はじめ多くの国会議員が参集した。衆議院議員38人、議員代理53人、参議院議員15人、議員代理10人が出席し、部員らと懇談した。

## 全旅連青年部が45周年記念式典で大会宣言



記念式典であいさつする山口部長

全旅連青年部は全旅連全国大会の同日、同会場で45周年記念式典を開催し、「我々全旅連青年部および全国の青年部員は、先輩方が築き上げてきた礎の上に今があることを深く感謝し、相互に研鑽を積むことで個々の人間力・旅館力を向上し、次代を担う責任と役割を自覚して、若者らしい先進性と団結した共創力で業界の先頭に立って未来を拓いていくことを宣言します。」という大会宣言を採択した



式典では青年部全国大会と第2回旅館甲子園の案内も行われた

## 懇親会には自民党観議連の衆・参議員53人が出席



「耐震改修問題」などについて語る細田会長



衆・参の大勢の議員が駆けつけ、紹介されて登壇、そのあと地元の青年部員と懇談した。埼玉県組合青年部からは黒沢前青年部長が参加し、三ツ林衆議院議員と懇談した

# 「自社HPでの販売向上を目指せ」

## OTAから自社のHPにくる確率は70%

全旅連青年部では総会終了後、流通対策委員会による「自社HPでの販売向上を目指せ」をテーマとしたセミナー「県部長サミット」を実施した。ネット直販の時代となった今、旅館・ホテルがこの環境を最大限活用していく上で重要となる自社のホームページの在り方、WEBマーケティングやユーザーのホテル予約までの経路における自社サイトの位置づけなどについて考えた。

旅館・ホテルの現場で最も力を入れているのは、オンラインマーケティングであるといっても過言ではない。自社ウェブサイトというより、楽天・じゃらん・一休等のオンライントラベルエージェント（以下OTA）の集客力はとても強いということ。消費者は宿を選ぶのに、取り扱いホテル数が豊富で、料金が安く、ポイントが付くなどの特典があり、口コミで施設やサービスの期待値が分かりやすいOTAを利用する。そのため旅館ホテルは、一生懸命に自分のホテルがそれぞれのサイトの中で消費者に選ばれるような、魅力的な「プラン」作りを行っている。また、各サイト内に広告を出したり、リスティング（自分の施設を上位に表示する）を行ったりしている。

セミナーでは「OTAで宿を見た人が自社HPを見にくる確率は70%もある。こうした人を逃すな。ここで、『自社が一番お得』であることをしっかりと伝えることが必要である」と述べ、そのためにも自社のHPの点検は大切なことだと強調、次のように説明している。

◇HPを一つ一つ分解してみると見えてくるものが沢山ある。欠点としては①予約導線が分からない②ムービーがFlashである③自社最安値保証（ベストレート）の記載がない④自社特典の記載がない⑤ポイント還元がない（工夫によって埋め合わせることが可能）⑥電話番号が一番下にある⑦スマートフォン用のHPがないなどが挙げられる。反面、ターゲティングが重要であり、客層



セミナーはプロジェクターを使って行われた

### 第2回旅館甲子園は来年2月18日、東京ビッグサイトで

全旅連青年部（山口敦史部長）は来年2月18日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で第2回旅館甲子園を開く。「旅館業界で働くスタッフそれぞれのオンリーワンのおもてなしを発表し、皆で切磋琢磨しながら学び合う場としたい」（山口部長）としており、さまざまな「おもてなし」の取り組みの応募を呼び掛けた。応募締切は7月末。8月末に1次審査、9月末に2次審査を行い、来年2月に決勝本大会を実施する。最優秀賞には協賛スポンサーからの豪華景品も予定されている。



写真は平成25年2月20日、同会場で開催された第1回旅館甲子園から

などターゲットを絞って、その人たちのほしい情報をしっかりと伝えているHPは好感をもたれるものだ。

◇HPからの三大離脱要因は①操作が分からない②先が見えない③クリック数が多いなどとなっているので気をつけたい。分かりやすさについて言えば「一筆書き」がHPのセオリー。階層を深くすると、「戻る」「閉じる」の作業が増える。これはNG。予約システムのトップページにも宿の「ウリ」を掲載したい。つまり、どこからでも宿の魅力を一発で確認できるようにするという。さらには、プランや客室毎に多数の画像や説明をつけること。客室についていえば、面積、ベッド幅、バスサイズ、眺望などだ。また、予約しやすくするために公式サイトトップページに検索パネル（出来ればファーストビューに）をつけるのもいい。この場合、予約事に「パスワードが必要」などとすると離脱の原因となる。なお、予約のページにオプション販売もきちんと提示すれば、付帯売上のUPにつながるのぜひトライしよう。

◇「OTAは依存せずに活用していく」ということについて述べたが、OTA比率が平均して80%という現実、そして、何よりも利益率の向上を考えると、今こそ、自社サイトを最高の武器になるよう努力したいものである。



全旅連女性経営者の会 (JKK) が総会と設立 10 周年記念式典を開催

# 全旅連女性経営者の会が 10 周年迎える

## 業界の振興に活かす各種の活動に賛辞

全旅連女性経営者の会 (JKK, 北川雅代会長) は 4 月 22 日、東京・千代田区のホテルルポール麹町で総会と同時に設立 10 周年記念式典および基調講演を開催した。

10 周年の式典では北川会長が「多くの人たちの支援があって 10 周年を迎えることができた」と謝意を示したあと、「会は小原顧問の呼び掛けで 8 人でスタートし、現在会員は 51 人を数えている。これからも発足当時の思いを忘れずに会員が心を一つにして所期の目的に向かっていきたい」とあいさつ。

来賓の佐藤会長は「東京オリンピックを控え、JKK のみなさんも旅館の国際化を図り、外国人客の誘致に取り組んでほしい」、JKK の小原顧問は「みなさんにはサービスだけでなく、経営に関する数字にも詳しくなって、会社の柱として力を発揮してもらいたい」と述べた。



10 周年を迎えて喜ぶ埼玉県の会員。村山青年部長もお祝いに駆け付けた

写真上からあいさつする北川会長、佐藤会長、池田理事、長代行、大勢の来賓。式典で合唱を行なう来賓たち



大勢の人が出席して行われた JKK の 10 周年記念式典

### JKK 10 周年記念の基調講演と定例会での勉強会から



記念式典で行われた基調講演。下は定例会で開催された「季節のなげいれ花講習会」

設立 10 周年記念では『『ほめ達』が人と組織を活性化～あなたの周りにはダイヤの原石がいっぱい!～』をテーマとした基調講演が行われた。講師を務めた日本ほめる達人 (ほめ達) 協会 (大阪) の西村貴好代表理事が、やる気を引き出すことで業績向上につながった実例を紹介。「ほめるとは人やもの、出来事の価値に気付き、相手に伝えること。他人との違いをコミュニケーションに生かしてほしい」と語った。



■女性経営者の会 (北川雅代会長) は 7 月 8 日、大阪府・あまみ温泉の南天苑で定例会のほか勉強会を開いた。テーマは橋本明元・なんば道頓堀ホテル専務取締役による「道頓堀ホテルの海外戦略」。大阪でも屈指のビジネスホテル激戦区である道頓堀で、「道頓堀ホテル」は、今では 90 % 超の稼働率を維持している。

橋本氏は『『誰に・何を・どうやって』売るか』という要素を競合他社と異なるものとすることによって価格競争から抜け出せる」とし、2009 年に自社のビジネスモデルを大きく転換させた。東アジアの旅行客に、心に残る思い出を提供するなどこれまでのビジネスホテル業界の固定概念をすべて打ち破るものであった。経営戦略を転換するに当たっては、それを実行する社員一人一人の能力やモチベーションが重要であるとし、「大事なのは、戦略と社風のバランス」と橋本氏は語る。

■山崎一弘・南天苑代表取締役による「客室に潤いのおもてなし『季節のなげいれ花講習会』」では、「花はあなたにとってあなたを表現できる一点」「『床の間』軸と花は宿亭主のメッセージである」と語る山崎氏は、流儀に捉われた生け花に限界を感じ、自然のなかにある花を投げ入れて生ける自分なりの生け花の会を主宰し、15 年になる。

「なげいれ」は生け花の手法の一つ。暮らしの中で自由に花をしむことができるもの。会員たちもまた個性的な花器を前にして花と一体となって、「自由な発想による自然の芸術」であるなげいれ花を楽しんだ。

## <エクステリアの総合商社>

あらゆる外構エクステリアから室内手すりに  
至るまで責任施工で対応させていただきます。

人工竹垣・人工芝・物置・カーポート・門扉  
フェンス・ポスト・レンガ・ブロック・石積み  
オリジナルロートアイアン・テラス・ベランダ  
オーニング・サンルーム・ウッドデッキ・光触媒・  
室内手摺等々ご提案。

お見積り無料です。

お気軽にお声掛け下さい。

### 株式会社 トコナメエプコス

お問い合わせ 営業四部 濱田

〒160-0003 東京都新宿区本塩町23

03-3354-5101・080-3422-4600

<http://www.tokep.co.jp>

## 日本食研

<http://www.nihonshokken.co.jp/>

### 日本食研株式会社

浦和営業所

〒336-0917 埼玉県さいたま市緑区芝原2丁目1-5  
TEL: 048-874-3911 FAX: 048-874-3917

川越支店

〒350-0822 埼玉県川越市大字山田1861-3  
TEL: 049-226-8521 FAX: 049-226-8651

さいたま支店

〒331-0822 埼玉県さいたま市北区奈良町109-3  
TEL: 048-664-4551 FAX: 048-651-6595

### リネンサプライ・寝具のご用命は (株)白興にお任せ下さい！！

(株)白興は、お客様がお使いになるリネンの洗濯・配  
送のサービスを行っております。  
全7工場によるサービス体制は洗濯から配送に至  
るまでの一括方式で行っており、お客様に真心と安  
心をお届けしております。  
その他寝具類やベッドライナー等の販売及びリース  
のお取り扱いもごさいます。  
色々な形でお客様のお役に立てる様、最高のご提  
案とサービスを追求致します。

安心のネットワーク 全7工場がお客様をアシストします

#### 7工場のネットワーク

守谷工場 三郷工場 日高工場  
栃木工場 栃木工場  
川口工場 千葉工場

#### 事業内容

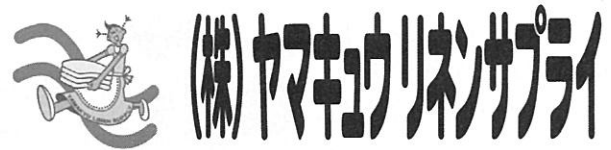
- リネンサプライ
- 寝具販売・リース
- ユニフォームレンタル

**「HAKKO」**  
TOTAL AMENITY SUPPLY

株式会社 白興

●本社  
東京都荒川区荒川3-33-1  
TEL 03-3807-0309

【お問い合わせ先】  
●リネンサプライ開発部  
埼玉県三郷市市助 126-2  
TEL 048-952-8346



さわやかな眠りと快適さをサポートしま  
す。

業務内容>> ・リネンサプライ ・業務用クリーニング  
・寝具リース ・寝具類販売

〒343-0105  
埼玉県北葛飾郡松伏町田島175-1  
TEL 048-991-4666  
FAX 048-992-2792

■宇都宮・北関東へのリネンサプライ供  
子会

(株)クリーンライフ北関東



〒329-0502  
栃木県下野市下古山3181  
TEL 0285-53-4611/FAX 0285-53-7048